

ἀμήν アメン

知っておきたい基督教のことば (1) アメン

基督教ではない人たちが基督教といって真っ先に思い浮かべるのは、「アメン」とみんなで唱える場面なのかもしれません。しばしば基督教徒のことを「アメンさん」、教会を「アメンの所」と呼ぶ人もいます。(実際にわたしの父はそう呼びます)。

この「アメン」という言葉、もともとはヘブライ語で、「堅固な」、「確立した」、また副詞的用法として「もちろん」、「確かに」という意味を持ちます。今でも礼拝の中で、お祈りの最後に声を合わせて唱えますが、「アメン」を唱えることによって、そのお祈りの言葉が「そうであるように」という信仰と同意を明らかにするのです。

聖書の中を見てみると、旧約聖書にも新約聖書にも「アメン」という言葉はでてきます。新約聖書ではパウロが書いた手紙の祈りの最後に出てくることが多いです。しかし、新共同訳聖書では分かりづらいのですが、イエス様も「アメン」という言葉を用いています。「はっきり言うておく」と訳されている箇所がそうです。例えばマタイ福音書 5:26 ですが、ギリシア語では「アメン レゴー(言う) ソイ(あなたに)」となっていますので、文頭に「アメン」がついているのが分かると思います。特に大切なことを言われる時に、イエス様は「アメン」と最初につけたのではないのでしょうか。

さらにヨハネ福音書には、「アメン アメン レゴー(言う) ヒューミン(あなたがたに)」という箇所(1:51 など)も見られます。新共同訳聖書ではマタイと同じように「はっきり言うておく」となっていますが、口語訳聖書ではマタイは「よく言うておく」、ヨハネは「よくよく言うておく」と違う訳になっています。だからどうしたということですが。

「アメン」という言葉の意味が、少しはお分かりいただいたでしょうか。「そう思う」と言う方は一緒にどうぞ。「アメン！」

次回は「愛」です。お楽しみに。



「祈るサムエル」

Joshua Reynolds, P.R.A. (1723-1792)

兄弟たち、わたしたちの主イエス・キリストの恵みが、あなたがたの霊と共にあるように、アメン。

(ガラテヤの信徒への手紙 6章 18節)

